

本教材の特長と内容

— 日本での留学や就職に役立つ 21 世紀日本のことば・文化・社会 —

本教材は、近年の日本のベストセラー書籍をめぐるエッセイ（以下、「書評エッセイ」と呼ぶ）をもとにした日本語読解教材です。ベストセラー書籍が扱っている社会現象に触れることで、日本の最新事情に関する情報を得ながら日本語を学習することを目的としており、難易度としては、日本語能力試験 N1 レベル合格をめざす学習者に対応しています。

書評エッセイで学ぶ長所

書評エッセイを用いた日本語教科書は世界でも新しい試みですが、これを題材とした理由は以下の 3 点です。

① 幅広いジャンルと重要なテーマをカバー

ベストセラーランキングの上位には、非常に幅広いジャンルの書籍が含まれており、さまざまな内容に触れることができます。また、対象が「ベストセラー」であり日本人によく読まれた書籍であるため、そこで扱われているテーマは、日本の現代文化、社会、言葉などとの密接な関わり合いを持つ重要なものであることも間違いありません。

② 現代的な題材を確保

2000 年以降のベストセラーに限って取り上げることとしているため、まさに 21 世紀の日本の流行や情勢に沿った題材で日本語を学ぶことができます。

③ 実際の日本書籍へのガイド

書評エッセイは一種のブックガイドの役割も果たします。インターネット書店の海外発送サービスや、電子書籍出版サービスが発達した今日では、日本国外に住んでいても日本の書籍に触れる機会が豊富にあります。より本格的な日本語学習のために、学習者が自ら日本の書籍を購入する場合に、本教材の書評エッセイや書籍情報が役立つと考えられます。

以下に、本教材の特長、編集方針および構成について、詳しく説明します。

本教材の特長

① 日本語学習者が知りたいことや学びたいことを盛り込んだ教材

本教材の最大の特長は、学習者の興味・関心に合わせ、彼らが知りたいこと学びたいこととして挙げる 21 世紀のリアルな「日本」像に多角的にアプローチすることを重視している点です。

中でも特に若い学習者の興味・関心に対応するために、1980 年代・1990 年代生まれの日本語学習者約 400 名に対するアンケート調査を事前に実施しました。調査結果から得られた示唆は、大きく二つあります。

一つ目の示唆は、「日本文化」への関心が依然として高いものの、そこでいう「文化」は従来の日本語教科書で頻繁に取り上げられてきたような、型にはまった「日本文化」像ではないということです。日本文化というと、歌舞伎や俳句のような伝統文化や、アニメやマンガといった一部のサブカルチャーにスポットが絞られがちですが、それだけが日本文化を代表しているわけではありません。現代の日本文化は、スポーツ、ビジネス、政治、日常生活など、さまざまな要素で成り立っており、学習者にとって重要なのは、より身近で多様な情報に触れることです。言い換えれば、「日本では今、何が起り、人々は何を考え、どのように生きているのか」を伝えるリアルな情報こそ、学習者が求めるものであるということです。

二つ目の示唆は、学習者は日本語で日本人と「コミュニケーション」をすることを大きな目的の一つにしているということです。これは当たり前のことですが、読解教材においてこの点が重視されることは、これまで多くはありませんでした。日本の大学への留学や日系企業への就職などの際に、日本語を使用して日本人とのコミュニケーションを進める上で、基礎的な日本語能力が問われることは当然のことですが、それに加えて「今、日本社会で何が話題になっているか」を知っておくことも極めて重要です。特に、すでに留学している人やこれから日本での就職をめざす若い学習者にとっては、「今の日本の人々の生活、文化、考え方」を知ることは大変有用です。

② 日本語能力試験 N1 合格をめざす読解教材

本教材の制作にあたり配慮した第2のポイントは、中級レベル以上の日本語学習者を対象として、日本語能力試験 N1 に合格するための読解力養成をめざすということです。

本教材の制作委員会には日本語教育や日本語学の専門家があり、制作にあたっては、日本語能力試験が2010年より大幅に改定されたことも考慮した上で、新しい日本語能力試験（以下、「新試験」とする）に対応できるよう留意しました。「N1」レベルの合格をめざすにはどういった知識・能力が必要であるかをよく検討した上で、本文の難易度や、教材中のトレーニング用問題などが作成されています。

新試験の合格基準で大きな特徴となるのは「課題遂行のための言語コミュニケーション能力」です。「課題遂行のための言語コミュニケーション能力」とは、『新しい「日本語能力試験」ガイドブック』（以下、「ガイドブック」）によると、「日本語学習者が、それぞれの目標言語使用領域で日本語を使用して課題を遂行するための日本語能力」と定義されており、この能力は、①「言語知識（課題遂行に必要な、日本語の文字・語彙や文法に関する知識）」、②「読解（言語知識を利用しながら、文字教材を理解して、課題を遂行する能力）」、③「聴解（言語知識を利用しながら、音声教材を理解して、課題を遂行する能力）」の三つに分けて測られるとされています。

本教材が対象とするのは、主に上記①と②です。ガイドブックに「N1、N2、N3 レベルでは基礎段階の N4、N5 に比べて、問題構成において、読解の比率を高くしています。」とあるように、新試験では読解能力を問う問題の比率が高くなっています。本教材も、「言語知識に関する設問」「読解問題」において、言語知識を利用しながら文字教材を理解して、課題を遂行する能力の育成を重視して制作されています。

③ 自ら考え、対話し、発信する力を育成する教材

本教材は、語学の習得のみならず、学習者が持つ「知ること」への欲求、「考える」ことに喜びを感じる心に応えたいと考えて制作されています。そもそも、言葉を運用するためには「自分で考える」という姿勢と能力が不可欠です。新試験のガ

イドブックに示されている「課題を遂行する」ことは、学習者自身が考え、それを日本語で発信することであるとも言えます。

その一助となることを目的として、本教材の本文では、単なる「情報の紹介」ではなく、書き手がその情報について何を思い、どう考え、どんな意見を抱いているのかが明確に示されています。また、学習者は課ごとに設けられた「思考のストレッチ」「内容理解」を通して文章への理解を深めた上で、「発展活動」という形で自ら考え、対話し、発信する活動が設けられています。

本教材の構成

以上の編集方針に基づいた上で、新試験 N1 合格をめざす学習のために、本教材では、以下のような構成を採用しました。

- ・ キーワード・関連語句
- ・ 思考のストレッチ
- ・ 本文
- ・ 注釈
- ・ 語彙・文法説明
- ・ 言語知識に関する設問
- ・ 内容理解
- ・ 発展活動
- ・ コラム
- ・ 参考文献
- ・ 索引
- ・ 解答（別冊）

それぞれの構成要素の目的と概要、および、使い方は「各課の構成と使い方」（p.x）に示す通りです。

ベストセラー書籍の選定

最後に、書評エッセイの対象となった「ベストセラー書籍」の選定基準を説明しておきます。

書評の題材として取り上げるベストセラー書籍を選定するにあたっては、有限会社 e パートナーが運営するウェブサイト「日本著者販促センター」に掲載されたものをはじめとして、大手取次や書店が発表している複数のベストセラーランキングを参照しました。

選定にあたっては、まず、学習者の興味・関心を把握するために、ベストセラー書籍のテーマを分類した上で、日本語を学ぶ1980年代・1990年代生まれの学習者に対してアンケート調査を行いました。

関心の高いテーマを抽出した後に、制作委員会のメンバーによる検討を行い、取り上げるテーマの偏りや、現代日本社会を象徴しているかといった点を総合的に判断して、対象書籍を選定しました。

実際に本文に触れていただければわかる通り、本教材が取り上げたベストセラー書籍は幅広い分野にわたっており、制作途中で行ったモニター調査でも、学習者からは非常に有用な内容であるとの評価が得られました。

日本語読書のきっかけに

私たち制作委員会は、人間にとって「知」を広げる最良の方法の一つは、書物を読むことであるとかたく信じています。インターネット時代を迎えた今も、良質な文章は、無料で閲覧できるウェブサイトではなく、書籍という形式で流通していることが多いのが現実だからです。

すでに触れたように、今日ではインターネット書店の海外発送サービスや、電子書籍出版サービスが発達しており、日本に住んでいない人にとっても、日本語の書籍がぐっと身近な存在となりました。インターネットが、私たちと書物の間の距離を縮めてくれているとも言え、日本語を学ぶ人たちの知のネットワークを広げる可能性は無限に広がりつつあります。

本教材を一つのきっかけとして、ここでは扱い切れなかったベストセラー書籍や、ここで扱ったテーマに関連する他の文献へも、興味や関心を広げていただければと思います。

